

令和5年度第8回中津川市域学連携成果発表会 質問専用フォームにお寄せいただいた質問への回答

| 質問したい発表団体 | 質問内容   | 回答   |
|-----------|--|--|
| 東京工業大学    | <p>①過去に空き家調査や空き地PJ(プロジェクト)を行っていますが、具体的にどのような活動をされていましたか？</p> <p>②また、事業者を中心に今後ヒアリングを行っていますが、市民のニーズに応えられるような実用的な活動を、他の域学連携の団体と協力して事業展開する可能性はありますか？</p> <p>※回答の便宜上、①②と附番しておりますが、お一人にご質問いただいた内容です。</p> | <p>①空き家調査では、真野研究室のプロジェクトの入り口として度々行っている、地域の中の空き家と見られる場所を水道メーターなどから目視で確認する手法を用いてマッピングするという調査手法をとっておりました。</p> <p>これにより、地域内の空き家の分布や活用状態を把握し、地域課題の抽出に役立てるといった活動の意味があります。</p> <p>空き地PJとしては、2018年頃に現在のひとまちテラス駐車場周辺敷地の空き地を活用したイベントの主催を中心に行っておりました。具体的には中津川市中心市街地の利活用を促すべく子どもを対象としたワークショップや飲食販売などを実施したり手伝ったりしていました。また六斎市での出店も同時に行い、地域の方とのつながりも保っていました。ここ2,3年では空き地というよりも都市緑地公園や六斎市で行った公共的な空間を活用した、市民参加型の意見募集ワークショップや出店を展開しておりました。</p> <p>②現段階で確定はしていませんが、活動の中で他の域学連携の団体と協力する可能性はあります。その一方で現時点では事業そのものを我々が展開することは考えておりません。</p> <p>私たちの来年度以降の活動としては、事業を行っている地域の方との情報共有や機会提供に着目しており、その中で他団体の方と協力し、意見の収集や機会提供を実際に協力していくことは今年度も行ってきました。そのような他団体と引き続き関係を持ちつつ、事業を行う側というよりも事業を支える側として活動を展開したいと考えております。</p> |

作成:中津川市市民協働課